

日中近代文化交流事始め 魯迅と留学生を中心に

2024年11月15日 附属天王寺小学校文化講演会



私の履歴

- 1972年 静岡県藤枝市生まれ
- 小学校高学年
歴史と文学を愛する少年
田んぼで土器を掘って過ごす
- 仙台で大学時代を送る
- 大学院では少数民族地帯に
生まれた作家を研究
- 2024年はゼミ生19人中18人が留学生



仙台旅行2024.3

息子に誘われて仙台旅行
図らずも父の人生を辿る旅に



魯迅（1904~1906仙台留学）



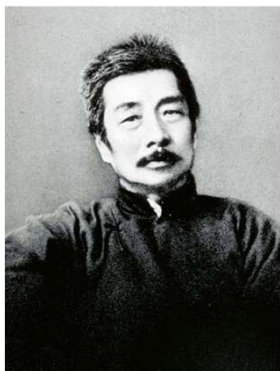
東北大学正門



魯迅先生像



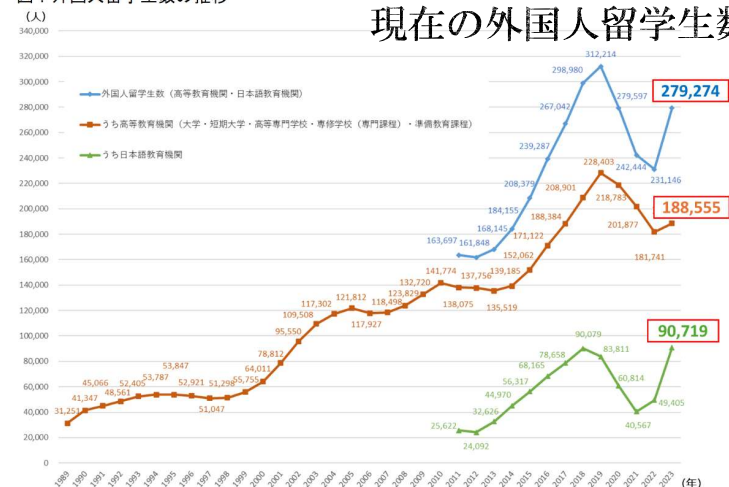
魯迅略年譜 (1881～1936)



- 1881 紹興で生まれる。本名 周樹人
- 1885 弟・周作人生まれる
- 1889 弟・周建人生まれる。祖父・周福清が科挙不正事件で入獄
- 1898 南京・江南水師学堂に入学、翌年南京・鉱務铁路学堂に入学
- 1902 日本留学開始（～1909）
- 1904 仙台医学専門学校に入学
- 1909 周作人と『域外小説集』を刊行、8月帰国
- 1912 北京の教育部に勤務
- 1918 「狂人日記」発表
- 1921 「故郷」「阿Q正伝」発表
- 1922 翻訳『労働者シェヴィリョフ』（アルツィパーシェフ）刊行
- 1923 翻訳『現代日本小説集』『呐喊』刊行
- 1924 『野草』執筆開始
- 1926 『彷徨』刊行、北伐戦争開始、白色テロを避けて厦門へ脱出
- 1927 1月、広州に移転、中山大学教授。4月、四・一二クーデター 7月、講演「魏晋の風土および文章と、薬および酒の関係」『野草』刊行 10月、許広平と上海へ
- 1936 死去

5

図：外国人留学生数の推移



6

主な出身国（地域）別留学生数

(各年5月1日現在)

No.	国・地域	留学生数		前年比増減	
		2023 年	2022 年	人数	増減率
1	中国	115,493	103,882	11,611	11.2%
2	ネパール	37,878	24,257	13,621	56.2%
3	ベトナム	36,339	37,405	△ 1,066	△ 2.8%
4	韓国	14,946	13,701	1,245	9.1%
5	ミャンマー	7,773	3,813	3,960	103.9%
6	台湾	6,998	5,015	1,983	39.5%
7	スリランカ	6,819	3,857	2,962	76.8%
8	インドネシア	6,552	5,763	789	13.7%
9	バングラデシュ	5,326	3,313	2,013	60.8%
10	アメリカ合衆国	4,076	1,655	2,421	146.3%
-	その他	37,074	28,485	8,589	30.2%
	合計	279,274	231,146	48,128	20.8%

大阪教育大学の留学生数（2023年前期）

国名	正規生	非正規生	合計
中国	170	5	175
台湾	5	7	12
その他	30	36	66
合計	205	48	253

8

目次



■前半
魯迅の思想と明治の日本



■後半
周作人と武者小路実篤

9

魯迅が学んだ教室



東北大学本部に今も残る仙台医専時代の教室

10

魯迅「藤野先生」1926

《私の講義ノートが取れますか?》とかれは訊ねた。

《どうにか》

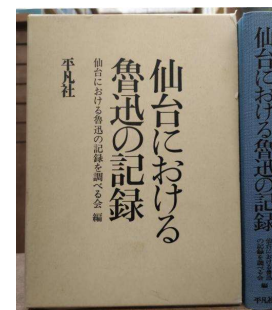
《見せてごらん》

私は筆記したノートをさし出した。かれは受けとって、一両日して返してくれた。そして、今後は毎週もってきて見せるようにと言った。持ち帰って開いてみて、私はびっくりした。同時にある種の困惑と感激に襲われた。私のノートは、はじめから終りまで全部朱筆で添削しており、たくさんの抜けたところを書き加えただけでなく、文法の誤りまでことごとく訂正してあった。このことがかれの担任の骨学、血管学、神経学の授業全部にわたってつづけられた。



11

『仙台における魯迅の記録』1978



仙台時代の魯迅について、関係者の生存中に聞き取り調査を行った成果
魯迅研究の基礎資料

2000年頃まで、仙台市片平丁に魯迅の下宿も現存していた

12

仙台時代の魯迅



图五:1 周樹人送別會紀念寫真

醫學

學科

第一學年

試驗成績表

明治三十八年七月

學	姓名	學號	下
第	試驗科目	試驗日期	試驗時間
一	內科	明治三十八年七月	上午九時至十二時
二	外科	明治三十八年七月	下午二時至五時
三	小兒科	明治三十八年七月	上午九時至十二時
四	婦科	明治三十八年七月	下午二時至五時
五	兒科	明治三十八年七月	上午九時至十二時
六	皮膚科	明治三十八年七月	下午二時至五時
七	泌尿科	明治三十八年七月	上午九時至十二時
八	眼科	明治三十八年七月	下午二時至五時
九	耳鼻喉科	明治三十八年七月	上午九時至十二時
十	牙科	明治三十八年七月	下午二時至五時
十一	放射線科	明治三十八年七月	上午九時至十二時
十二	物理療法科	明治三十八年七月	下午二時至五時
十三	化學療法科	明治三十八年七月	上午九時至十二時
十四	藥劑學	明治三十八年七月	下午二時至五時
十五	解剖學	明治三十八年七月	上午九時至十二時
十六	生理學	明治三十八年七月	下午二時至五時
十七	病理學	明治三十八年七月	上午九時至十二時
十八	細菌學	明治三十八年七月	下午二時至五時
十九	免疫學	明治三十八年七月	上午九時至十二時
二十	公衆衛生學	明治三十八年七月	下午二時至五時
二十一	法醫學	明治三十八年七月	上午九時至十二時
二十二	社會醫學	明治三十八年七月	下午二時至五時
二十三	預防醫學	明治三十八年七月	上午九時至十二時
二十四	衛生學	明治三十八年七月	下午二時至五時
二十五	營養學	明治三十八年七月	上午九時至十二時
二十六	環境衛生學	明治三十八年七月	下午二時至五時
二十七	職業衛生學	明治三十八年七月	上午九時至十二時
二十八	労働衛生學	明治三十八年七月	下午二時至五時
二十九	産業衛生學	明治三十八年七月	上午九時至十二時
三十	安全衛生學	明治三十八年七月	下午二時至五時
三十一	労働安全衛生學	明治三十八年七月	上午九時至十二時
三十二	労働安全衛生學	明治三十八年七月	下午二時至五時
三十三	労働安全衛生學	明治三十八年七月	上午九時至十二時
三十四			

目録表 (明治三十八年七月)

明治三十八年七月

明治三十八年七月

明治三十八年七月

明治三十八年七月

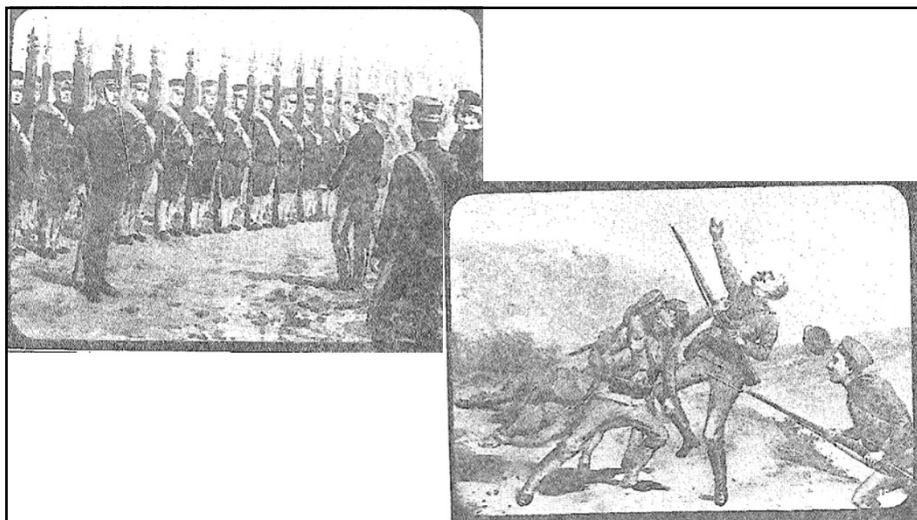
明治三十八年七月

明治三十八年七月

寶三一—27 明治三十八年七月、醫學
 第一學年試驗成績表 (成績表)

幻灯事件と文学への転向

■ いま微生物学を教える方法がどんな進歩をとげたか、私はまったく知らないが、そのころはスライドを使って、微生物の形態を映してみせた。そこで、講義が一段落してまだ時間があると、教師は風景やニュースを映して学生に見せて、時間の穴をうめたものだ。ちょうど日露戦争の最中として、当然のことながら、戦争関係のスライドがわりに多かった。その度に私は、この教室で、同級生たちの拍手と喝采とに自分も調子を合わせるほかなかった。あるとき私は、思いがけずスライドでたくさんの中国人と絶えて久しい面会をした。まん中に手をしばられた男、それを取り囲んでおおぜいの男、どれも体格はいいが、無表情である。解説では、しばられているのはロシア軍のスパイを働き、見せしめに日本軍の手で首を斬られるところ、とり囲んでいるのは、その見せしめの祭典を見に来た連中であつた。その学年がおわる前に、私は東京にもどっていた。あのことがあって以来、私は、医学などは肝要でない、と考えるようになった。（「呐喊自序」1923より）



清国留学生の増加とその背景

日本

- | | |
|------|--|
| 1871 | 文部省設立 |
| 1872 | 学制発布 |
| 1886 | 学校令 小学校・中学校・
帝国大学を基本とし、
別系統の師範学校と並立
→学校制度の骨格が完成 |

義務教育の実現・「国民皆学」

中国

日清戦争の敗北（1894～95）で、
「近代学校教育のめざましい発展こそ
が、日本の急速な国家発展の基礎と
なっている」との認識が生まれる

→ 1902 「欽定学堂章程」發布

以後清末の10年間にわたり、

小学堂～大学堂 各段階の学堂（近代学校）が全国規模で作られる

→ 1905 科举废止

日本の教育制度・目的・内容・方法など、すべての面において模倣される

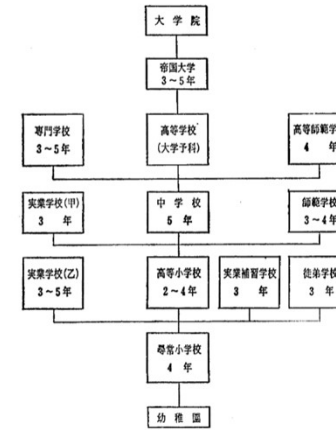
清末（1894～1911）の翻訳教科書

清末における日本書籍・各科教科書類の訳出状況：中国で翻訳された日本語書籍は512冊を数え、内容では哲学・宗教24、言語・文学39、教育81、歴史・地理100、社会科学（経済・財政・政治・法律など）198、自然科学74。圧倒的多数は1900年以後、とくに1905年以後の出版



17

①日本（1900年）



②中国（1904年）

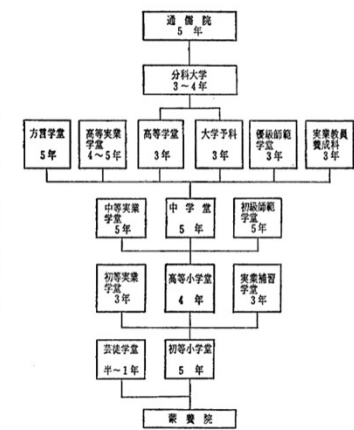


図 8 20世紀初頭における日中両国の学校制度

18

清国留学生の増加

駐華公使 矢野文雄（竜溪）の提案

- 矢野文雄（1850～1931）『経国美談』『浮城物語』の作者
- 「清国政府若シ学生ヲ日本ニ派遣スルニ意アラバ、日本政府ハ之ガ為メニ費用ヲ給シテ多数ノ学生ヲ引受ケ教育セント欲ス」

→ 日本政府が中国人留学生の教育を引き受け、経費も負担する

→ 1896年に最初の留学生が来日

1899年→約200人

科举廃止の1905年→8000人

爆発的増加

1906年→10000人超



19

無数遊学生は互いに約束したらんが如く「右向け右へ」の歩調正しく学堂門前を辞し、……日本通いの便船ある毎に、乗込まんとしては他人に機先を制せられ、満員となりては断われ断われ、便船二三杯目にヤットコサにて船室の一隅に踞踏するを厭う余裕もなく、東京へ東京へと詰めかけ来るなり。

『早稲田学報』第141号、1906

→ 急増する清国人留学生に対応するため、日本側では私設の留学生向けの学校や私立大学での留学生部門の創設が相次ぐ



20

表 3 主要な中国人留学生教育機関 (1907年12月)

学 校 名	学生数	学 校 名	学生数
法 政 大 学	1,125	中 央 大 学	104
宏 文 学 院	911	研 数 学 館	89
早 稲 田 大 学	820	日 本 体 育 会 体 操 学 校	80
経 緯 学 堂	542	東 京 高 等 工 業 学 校	73
明 治 大 学	454	東 京 鉄 道 学 校	64
東 斌 学 堂	321	実 践 女 学 校	47
振 武 学 校	386	東 京 物 理 学 校	45
東 京 警 監 学 校	213	東 京 高 等 師 範 学 校	44
東 亜 鉄 道 学 校	165	東 京 高 等 商 業 学 校	41
岩 倉 鉄 道 学 校	153	東 京 帝 国 大 学	35
東 京 同 文 書 院	145	同 仁 医 薬 学 校	35
成 城 学 校	110	第 一 高 等 学 校	31
日 本 大 学	109		

出典) 日本外務省記録『在本邦清国留学生関係雑纂第一 陸軍学生・海軍学生外
部』

21

留学生ブームの終焉

1905年

- 9月 科举制度の廃止
- 9月 早稲田大学清国留学生部開設
- 11月 「清国人ヲ入学セシムル公私立学校ニ関スル規程」公布

1906年

- 2月 清国政府「選送遊学限制弁法」公布

1907年

- 9月 清国留学生部の予科・本科廃止。新たに普通科・優級師範科を発足

1909年

- 7月 アメリカ留学の予備校として北京に清華学堂 (現清華大学) を開設

1910年

- 7月 清国留学生部閉部

わずか10年あまりのブームの間に魯迅らが留学

その理由は...

- 日本の留学生教育は、6ヶ月から1年の速成教育が中心
→批判と受け止め早稲田では予科1年、本科2年の3年制に移行
- 質の低下を憂慮した清国政府は「選送遊学限制弁法」を発布
- 留学に資格制限を設け、速成留学生の派遣中止を決定
→だが実際には、新思潮に触れ、清朝打倒や共和制実現などの革命思想を抱く者が増加したことへの警戒。孫文が東京で結成した中国革命同盟会には多くの学生が参加、また法政の宋教仁のように亡命目的で留学した者も

23

留学生の経済事情

公費留学生・黄尊三の1908年の家計簿

公費留学生には毎月33円 (66万円) が支給されていた



1ヶ月の予算表 (主なもの)	
間代 (まかないつき)	11円
来客の食事	3円
たばこ	50銭
巻紙	20銭
理髪代	20銭
洗濯代	40銭
風呂代	60銭
学費	3円30銭
本・紙・筆墨	2円
衣服・履き物	2円
医薬費	5円
電車賃	30銭
新聞	35銭
合計	毎月28円10銭

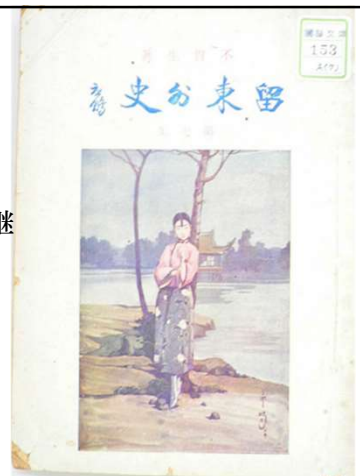
留学生は
裕福だった

1円=現在の2万円と換算すると、約56万円

24

不肖生（向愷然、1889-1957）『留東外史』
上海：民権出版社
正集（第1集～第5集）と
続集（第6集～第10集）からなる全10冊
第1集の刊行は1916年で、1922年まで書き継
がれた

留東の「東」とは日本のこと
日本留学中の羽振りのよい中国人留学生在
金に飽かして豪遊した様子を記述する
中国では発禁処分に



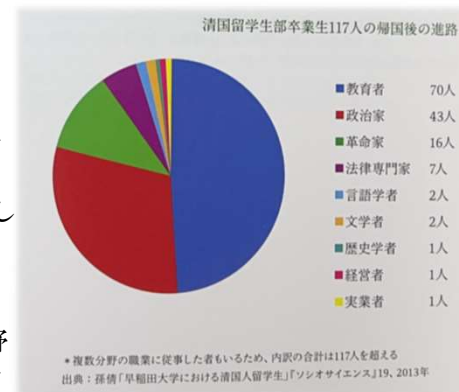
東京都立中央図書館所蔵

25

留学生の進路

早稲田の清国留学生部を卒業して
帰国した留学生らは、自国の教
育・政治・研究の各方面で活躍し
た。

その後の進路が判明している約
120人のうち、8割以上が教育分野
に、次いで多いのは政治家で、そ
の次が革命家となっている。



26

魯迅に戻ります



- 1881 紹興で生まれる。本名 周樹人
- 1885 弟・周作人生まれる
- 1889 弟・周建人生まれる。祖父・周福清が科挙不正事件で入獄
- 1898 南京・江南水師学堂に入学、翌年南京・毓務鐵路学堂に入学
- 1902 日本留学開始（～1909）
- 1904 仙台医学専門学校に入学
- 1909 周作人と『域外小説集』を刊行、8月帰国
- 1912 北京の教育部に勤務
- 1918 「狂人日記」発表
- 1921 「故郷」「阿Q正伝」発表
- 1922 翻訳『労働者シェヴィリョフ』（アルツィパーシェフ）刊行
- 1923 翻訳『現代日本小説集』『呐喊』刊行
- 1924 『野草』執筆開始
- 1926 『彷徨』刊行、北伐戦争開始、白色テロを避けて厦門へ脱出
- 1927 1月、広州に移転、中山大学教授。4月、四・一二クーデター
7月、講演「魏晋の風土および文章と、薬および酒の関係」
- 『野草』刊行 10月、許広平と上海へ
- 1936 死去

27



紹興 2016.8

28



◆「故郷」

『新青年』第9巻1号、1921.5

「故郷」を収録した魯迅の第一小説集『呐喊』（1923.8）は10万部に迫る売れ行き

◆中学校国語教科書（2024発行）

—魯迅「故郷」を収録するもの—

- ① 学校図書『中学校国語3』 「5 世代を超えて」（?）
- ② 教育出版『伝え合う言葉 中学国語3』 「第1部 基本」の中の「読む」
- ③ 三省堂『現代の国語3』
- ④ 東京書籍『新しい国語3』 「6 自分の感想を深めよう」
- ⑤ 光村図書出版『国語3』 「3 状況に生きる」

→1953年教育出版が採用した後も増え続け、日中国交回復の1972年から
は大手五社のすべての教科書に魯迅「故郷」（竹内好訳）が収録される

東京で寂寞に襲われる

『呐喊』「自序」1923

- 『新生』の出版期日がせまったが、まず原稿を引き受けていた数人が姿をくらました。ついで資本も逃げてしまった。あとには文なしの三人だけが残された。はじめから時勢にすぐわぬ計画、失敗したとて人に文句をつける筋ではない。しかもその後は、この三人もそれぞれに運命が分かれて、共に未来のよき夢を語りあうこともできなくなった。これがわれわれの『新生』流産の顛末である。
- 私が、これまで経験したことのない味気なさを感じるようになったのは、それから後のことである。はじめは、なぜそうなのかわからなかった。後になって考えたことは、すべて提唱というもの、賛成されれば前進をうながすし、反対されれば奮闘をうながすのである。ところが、見知らぬ人々の間で叫んでみても、相手に反応がない場合、賛成でもなければ反対でもない場合、あたかも涯しれぬ荒野にたったひとりで立っているようなもので、身のおきどころがない。これは何と悲しいことであろう。そこで私は、自分の感じたものを寂寞と名づけた。

→「鉄の部屋」の故事を経て、寂寞を希望に転じる

33

傍観者に対する怒り—寂寞から復讐へ—

「さらし刑」1925 第二小説集『彷徨』所収 藤井2002による要約

夏の日の北京の街角に、サーベルを提げた巡査に引かれて白い刑服に麦藁帽を目深にかぶった罪人が現れた。さらし刑だ。たちまち近隣や通りがかりの人々が集まって見物を始める。肉まん売りのデブの少年、ハゲの老人、上半身裸の大男、はしっこい小学生、子供を抱いた召使いの女……罪状は刑服に大書してあるのだが、ろくに読めるものもおらず、「あいつ何をやったんですか」と常識的な質問をした工員はかえって周囲の者に凝視され、いたたまれずにその場を離れる始末。やがて烈日に耐えられなくなった群衆は、人力車の転倒事故をきっかけにして散っていくのだった。

→精神が麻痺して物見高い習性ばかりが残った民衆の生態を、
新感覚派を思わせる手法で描き出しており

「『呐喊』自序」で語られた幻灯事件の影を彷彿させる作品

34

「ノラは家を出てからどうなったか

一九二三年十二月二十六日、

北京女子高等師範学校文芸会における講演」

大衆—とりわけ中国の大衆は、—永遠に芝居の観客であります。犠牲が登場して、悲壮な演技をすれば彼らは悲劇を見たことになり、おどおどと演ずれば彼らは喜劇を見たことになるわけです。北京の羊肉店の前には、口をあんぐりあけて羊の皮を剥ぐのを見ている人がいつも何人かいます、とても楽しげな様子です。人間の犠牲が彼らに与え得る利点もせいぜいこんなものなのです。そのうえ、見終わって数歩もゆかぬうちに、彼らはこのわずかな楽しみさえも、けろりと忘れるときています。

こういう大衆にはつける薬はありません。ただ一つ、見る芝居をなくしてしまうのが治療でしょう。瞬間、あつと耳目を驚かすような犠牲はまったく不必要、深くねばり強い戦いに勝つものではありません。

35

「復讐」（『野草』）

だがかれらふたりは、広漠たる曠野に、全身を裸にし、手に利剣をにぎって相対して立つ。だが抱擁もせず、殺戮もしない。いや、抱擁あるいは殺戮の気配さえない。

かれらふたりは、永久にこのまゐる。いきいきした肉体が枯渇してくる。だが抱擁あるいは殺戮の気配はまったくない。

通行人は退屈してくる。退屈がかれらの毛穴へ忍びこむような気がし、退屈がかれら自身の心から毛穴を通して爬い出し、曠野にひろがり、また他人の毛穴へ忍びこむような気がする。かくてかれらは喉と舌が渇き、首筋が痛くなる。しまいには顔と顔を見あわせ、ぼつぼつ散ってゆく。まるで生気を失うまでに枯渇を味わわれたように。

36

《きみは、こんなものを写して、何の役に立つのかね?》ある夜、私のやっている古碑の写本をめくりながら、かれはさも不審そうに訊ねた。

《何の役に立たんさ》

《じゃ、何のつもりで写すんだ?》

《何のつもりもない》

《どうだい。文章でも書いて……》

かれの言う意味が私にはわかった。かれらは『新青年』という雑誌を出している。ところが、そのころは誰もまだ賛成してくれないし、といって反対するものもないようだった。かれらは寂寞におちいったのではないかと私は思った。だが言ってやった。

《かりにだね、鉄の部屋があるとすよ。窓はひとつもないし、こわすことも絶対にでさんのだ。なかには熟睡している人間がおおぜいいる。まもなく窒息死してしまうだろう。だが昏睡状態で死へ移行するのだから、死の悲哀は感じないんだ。いま、大声を出して、まだ多少意識のある数人を起こしたとすると、この不幸な少数のものに、どうせ助かりっこない臨終の苦しみを与えることになるが、それでも気の毒と思わんかね》

《しかし、数人が起きたとすれば、その鉄の部屋をこわす希望が、絶対にないとは言えんじやないか》

そうだ。私には私なりの確信はあるが、しかし希望ということになれば、これは抹殺はできない。なぜなら、希望は将来にあるものゆえ、絶対にないという私の証拠で、ありうるといふかれの説を論破することは不可能なのだ。そこで結局、私は文章を書くことを承諾した。

(「呐喊自序」より)

41

「『或る青年の夢』 訳者序」 1919

昨日の午後、孫伏園が私に「ちよつともを書かれましたか?」と言った。「文章はできない。でも『或る青年の夢』なら訳してもよい。もつともこの御時世にはあまり向くまい。双方が憎みあっているのでは、喜んで読む者はいそうもない」と私は答えた。夜、灯をともし、本の背の金文字を目にしながら昼の話を思い出すと、突然、自分の根性が疑わしく思われて、恐ろしくなり恥ずかしくなった。人はこうであってはならぬ—こうして私は翻訳に着手したのであった。武者小路氏は『新しき村に就ての感想』の中で、「火をうちに持つものよ、火をかくれたる処におかずに、我等に見える処におけ、そして合図してくれ、『こゝにもあなた達の兄弟がある』と」と述べている。彼らは嵐の中でたいまつを掲げたというのに、私はそれを黒い帳で蔽い隠し、眠り続ける人におもねろうというのか?

42

〈希望〉の論理

「希望」(『野草』)

絶望は虚妄だ、希望がそうであるように。

もし私がこの不明不暗の「虚妄」のうちに命ながらえるなら、かの過ぎ去った悲しく、また取りとめない青春を、よしそれが身外にあろうとも探し出そう。身外の青春ひとたび消滅すれば、わが身中の遅暮も同時にしぼむのだから。

①もう何も信じられない(寂寞)

②当然、希望も信じられない(希望は虚妄だ)

③ということは、絶望も信じられない(絶望は虚妄だ)

④だったら、希望を信じてみよう(論理の反転)

「故郷」

まどろみかけた私の眼に、海辺の広い緑の砂地がうかんでくる。その上の紺碧の空には、金色の丸い月がかかっている。思うに希望とは、もともとあるものともいえぬし、ないものともいえない。それは地上の道のようなものである。もともと地上に道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。

43

周作人

- 1885 浙江省紹興生まれ
- 1906夏から秋 日本留学 本郷湯島二丁目 伏見館に下宿
- 1908 立教大学で古代ギリシャ語を学ぶ
- 1909年3月 羽太信子と結婚
- 1911 妻を連れて中国に帰国 紹興で英語教員
- 1917年9月 北京大学教授に就任 『新青年』に論文を掲載
- 1920 文学研究会の設立準備に関与 1921上海『小説月報』商務印書館
- 1924 『語絲』創刊、日本文化に関する随筆、散文を多数掲載
- 1931 『生活と芸術』
- 1932 『中国新文学の源流』 数多くの日本の文化人と交流
- 1940~ 教育総署督弁に就任、南京国民政府(汪兆銘政権)の華北政務委員会委員
- 1945年12月 漢奸(民族の裏切り者)として逮捕 投獄(~1949年1月)
- 1949年8月 北京へ戻る(~1967年5月 北京八道湾の自宅で死去 享年82歳)



44



45

日本人との交流

- 2015年3月、顧偉良（弘前学院大学）が周作人宛日本語書簡が周家に現存することを公表、日本の学術界に驚きが走る
- 顧偉良「日本の各界人士による周作人あての書簡人名リスト（360名）」
（<https://www.hirogaku-u.ac.jp/pdf/list2.pdf>）に書簡の差出人が整理
- 顧氏のリストをさらに整理・補充するプロジェクト（科研費国際共同研究強化（B）：研究分担者・中野知洋） 2019年3月に最初の現地調査開始
- **1000名を超える差出人からの約2500点の書簡および名刺を採録、**
簡易目録を作成中、今年度末に刊行予定
- 周作人と交流のあった日本人はほぼ網羅
- 今後の周作人研究の深化に貢献



小川利康『叛徒と隠士 周作人の一九二〇年代』2019から引用

周作人に影響を与えた作家たち

『ホトトギス』	明治39年	俳句誌から文芸誌に変貌 漱石『吾輩は猫である』（明治38年）、坂本四 方太『夢の如し』（明治40年）などを掲載
『スバル』	明治42年	石川啄木を発行名義人とし、森鷗外を指導者 に仰ぐ
『三田文学』	明治43年	永井荷風を教授に迎え、『早稲田文学』に対 抗
『新思潮』第2期	明治43年	小山内薫、谷崎潤一郎、木村荘太ら耽美主義 的傾向
『白樺』	明治43年	武者小路実篤、有島武郎、志賀直哉など 理想主義を志向し、武者小路は夏目漱石に親 近感を表明

1910年を中心とする新たな文学流派の台頭（『新潮日本文学辞典増補改訂版』による）

46

武者小路実篤と 周作人の出会い



- 周さんを始めて知ったのは何度も書いた通り、僕が同人雑誌白樺の編輯をしてゐる時で、白樺の二巻目の時だと思ふ。僕の二十七歳の時で、周さんはもう僕がその時有名だったやうに書いて下さったが、一般には認められず、原稿も白樺以外の雑誌からは注文されたことのない時分で、一部の人は名を知つてゐてくれたかも知れないが、それはごく少数の人に過ぎなかつた。
- さう言ふ時代に僕の所で白樺のロダン號の残本が十冊あまりあるのを賣つてもいいと言ふことを白樺の記事の處に書いた。何人かの人から注文があつた。その内の一人に周さんが入つてゐ、北京だつたか、大連だつたか忘れたが、何しろ海外から注文して下さった。その手紙の文句は忘れたが、僕はその手紙を見て感激した事は事實である。勿論ロダン號は早速お送りしたと思ふ。
〔……〕
- だからロダン號の廣告をしなかつたら、周さんとは知りあひになれなかつたわけだ。

（武者小路実篤「周作人さんとの友情・想ひ出など」1944）

48

周作人から見た武者小路実篤

そもそも私が武者先生に初めてお会いしたのは民國八年(大正八年)の秋だったから、もう二十四年も前の事である。武者先生(常々皆がかう呼ぶので今では通稱になる)はその頃日向で新しき村を經營されてゐたので、私はその山に囲まれた村へ行き、先生の家を訪ねて四日ほど泊まり歸途、大阪、京都、濱松、東京等の新しき村支部を訪ねて、前後十日間を費した。二回目は民國二十三年(昭和九年)で、私が夏期の休暇を利用し、東京へ二ヶ月ほど滞在した時である。そこで會見し一緒に新しき村支部について話した。又三回目は民國三十年(昭和十六年)の春で東亞文化協議會參與の爲東京へ赴き、日本筆會(ペンクラブ)の諸名家達に星ヶ岡茶寮へ招待された時である。丁度武者先生も此の中の一入だったので會見出来たわけである。それから今年の四月に先生が南京の中日文化協會へ来られた時、北京へも来られたので會ふ機會を得た。これは丁度四回目の會見である。

周作人「武者先生と私」1944.9



49

周作人の「新しき村」紹介

- 大正7年(1918)9月15日 実篤夫妻の壮行会
「白樺」同人や会員が参加

→周作人10月25日の日記に

「新ラシキ村社へ金一円二十銭を郵送」

- 周作人「日本の新しき村」(『新青年』第6巻第3号、1919)

近年日本の新しき村運動は、世界において注目に値することの一つである。従来からUtopiaを夢見る人が少なからずいたとはいえ、未だ嘗て実行に移さなかった。あるいは試みたものの、種種の事情でしばらく経たないうちに消えてしまったのである。〔…〕新しき村運動はさらに一步を進んで、汎労働を主張するとともに、互いに協力する共同生活を提唱している。人類への義務を尽くす一方、それぞれ自分自身への義務をも尽くす。協力を賛美するとともに、個性をも賛美する。共同の精神を發展させると同時に、自由の精神をも發展させるのである。これはまことに切実で実行可能な理想であり、真に普遍的な人生の福音である。



50

周作人「新しき村」視察と宣伝

- 1919年夏、東京に帰省中の妻子を迎えに来た周作人は、わざわざ宮崎の日向に立ち寄り、新しき村を訪問



「日本新村探訪記」(『新潮』第2巻第1号)

七月二日、北京から早朝の汽車に乗り出発し、午後には塘沽に到着した。郵船会社の小さな汽船に乗り換えて、大型蒸気船に搭乗し、六時に出帆した。四日は濃霧で朝鮮の沖合に一日停泊したせいで、六日の朝やっと門司に着き、汽車で吉松へと向かった。その日にちょうど基隆からの汽船も入港したところだったので、汽車の中は非常に混み合っていた。荷物部屋の入口に、誰が落したのかが判らないが、数個の大きなパイナップルが衆人の足下に転がっていた。

51

- 新しき村視察、帰国後、自宅に「北京支部」設立
新聞、雑誌、各地で講演して宣伝

- 「日本新村訪問記」(『新潮』第二巻第一号、1919年10月)
- 「新しき村の精神」(天津學術講演会における講演、1919年11月)
- 「新しき村運動の解説—胡適先生の演説に答えて」(『晨報』1920年1月24日)
- 「工学主義と新しき村に関する討論」(『工学』第一巻第五号、1920年3月)
- 「新しき村の理想と現実」(北京社会実進会における講演、1920年6月)
- 「新しき村の討論」(『批評』第五号、1920年12月)

- 新しき村の理想:「互助」と「独立」、「協力」と「自由」の調和のとれた「人間らしい生活」
- 周作人の文明論:「靈肉一致」、「新しい節制」と「新しい自由」との調和
- これらを血を流さずに社会を改良するヒントを周に与えた

52

「新しき村」紹介の反響

- 周は「新しき村」で新思想家の地位をかためる。中国各地の有志青年の尊敬を集める存在に
 - 全国から周作人を訪ねてくる人はあとをたたず、中国各地から北京の八道湾にある周作人と魯迅の自宅に手紙が届けられる。
 - 訪問客の中に、当時まだ無名の**毛沢東**がいた。周作人の1920年4月7日の日記に毛沢東の名前が見える。
 - 周作人の新しき村紹介を読んだ毛沢東は、自分も新しき村の建設計画書を作り、その中の一章を『湖南教育』（1919.12）に発表した。
 - 「ロシアの青年は社会主義を広げるために、農村へ行って、農民と雑居する（文化大革命1966～76→下放）。日本の青年は新しき村が、アメリカ及びその植民地のフィリピンでは「工読主義」が流行る。それらをまねて、わが国の留学生たちは最近「新村主義」を盛んに唱える。アメリカでは「工読会」を組織し、フランスでは「勤工儉学会」を作る。」
 - 毛沢東の構想は、学校、家庭、社会を一体とする「新村」を建設。その新村の中の施設として「公共育児院、公共蒙養院、公共学校、公共図書館、公共銀行、公共農場、公共工場、公共消費社、公共劇場、公園、博物館、自治会」を作る。
- 当時の毛沢東の空想主義



53

工読互助団

- 社会主義の思潮の世界的な流行の中で、大きな反響を呼ぶ
- 王光祈 少年中国学会 工読互助団 1919年7月
- **新村式グループ作りを提唱**
- グループの拠点を都市の郊外に設け、野菜畑を経営する。毎日労働2時間、読書3時間、翻訳3時間。野菜を栽培
- 物質的需要を解決し、読書により精神生活の欲求を満たす
- 陳独秀・蔡元培・李大釗・胡適・周作人・王光祈・高一涵、羅家倫、顧兆熊ら「工讀互助團募款啓事」（『新青年』第七卷第二号、1920年1月）
- 各界に寄付金を募って、
「新しき村」をモデルにした「工読互助団」を正式に発足
- たちまち全国に広がり、武昌、南京、天津、上海、湖南、浙江など

54

→数ヶ月後に解散するものの、

李大釗、毛沢東、張聞天、鄧中夏、惲代英、高君守、趙世炎など、
中国共産党の早期メンバー、幹部の多くが新しき村運動に関心を寄せる

- そんな中、毛沢東は1920年4月20日に北京八道湾の周宅を訪問
- 若き日の共産主義者たちが新しき村運動—中国の伝統的な桃源郷、大同社会との共通性を見いだす—に共感を示したことは、中国におけるマルクス主義需要以前の思想状況を知る上で重要



北京西直門外・八道湾の魯迅と周作人の邸宅



55



中国モダニズム研究会『中華文化スター列伝』2016



1902年、明治35年、ある若い中国人留学生が、日本の首都東京に到着しました。のちに現代中国を代表する作家となる、魯迅（1881-1936、日本留学「以下『留学』」は1902-09）です。国語の教科書で、「龍驤」という短語を読んだ記憶のある人がいるかもしれませんが、《龍驤》をした『豆腐店小町』の「龍おぼさん」や、西風楼で香歌を誦する幼なじみの「蘭王」が、忘れがたい印象を残します。「放蕩」とは、魯迅の出身地、（注）の永都都市（龍驤）（浙江紹興）です。没落地主の家に生まれた魯迅は、《龍驤》（龍驤）の学校を経て、日本へと留学しました。

中国から日本へと留学生が来はじめのは、1900年前後のことです。彼ぞういの秀才たちは、中国の近代化を進める上で、大きな役割を果たしました。それから百年以上が経ち、日本にきている留学生の総数は、1983年には1万人でしたが、2003年に10万人、2015年に20万人を超えました。そのうち中国人留学生が半数近くを占め、約9万人以上です。

1 日本学生支援機構の「平成22年度外国人留学生生活状況調査結果」に関する（http://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2015/index.html）。

56

■新しき村はまだあった！
<http://www.atarashiki-mura.or.jp/>

「武者小路実篤」が私財をつぎ込んだ「理想郷」が「限界集落」に…
残った村民は3人だけで「現状維持が精いっぱい」

8/11(日) 9:01 配信 14       

デイリー新潮 DAILY SHINCHO



村内の事務室で村の現状などを話してくれた吉原民雄さん【撮影：菊地正憲】

第1回【“奔放すぎる妻”が次々に若い男と「恋仲」に…文豪・武者小路実篤の理想郷「新しき村」で女たちが織り成した“複雑な人間関係”】からの続き

【写真を見る】「限界集落」化した2024年の「新しき村」…建物は老朽化が進み、草草が目立っている

「仲よき事は美しき哉」の言葉などで広く知られる武者小路実篤。彼が残した「村」をご存じだろうか。「万人が調和して暮らす理想郷」を目指した「新しき村」である。

1918年に宮崎県児湯郡で開村したものの、1939年にダム建設の影響で大部分が埼玉県入間郡に移転。戦争を経て現在まで続くその過程には紆余曲折があった。



アクセスマップ

所在地：
〒350-0445 埼玉県入間郡毛呂山町大字菟宮423番地1
TEL:049-295-5398 / FAX:049-295-5398



電車でお越しの方

- 東武越生線「武州長瀬駅」、村まで徒歩20分ほど
- 東武越生線「武州長瀬駅」からタクシーで5分ほど
- JR八高線「毛呂駅」からタクシーで10分ほど

うたがたあま聴い清ざご

58